

震災の教訓を未来へつなぐ時間

■ 1月22日(木)、道徳の時間に全校で「JRCオンライン語り部LIVE」を実施しました。

○本取組は、東日本大震災から十数年が経過し、当時を知らない世代の子どもたちが、被災地の想いを受け継ぐとともに、災害発生時に自らの命を守る行動について考えることをねらいとして行われているものです。今年度は、震災当時中学1年生として「釜石の出来事」と呼ばれる率先避難を経験された、釜石市出身の語り部・紺野堅太さんから、当時の状況をリアルな言葉でお話しいただきました。自分の命を守ることはもちろん、周囲の大切な人の命を守るために、どのように行動すべきかを真剣に考える貴重な時間となりました。

□生徒の感想等（抜粋）

○自分が住んでいる地域は沿岸ではないけれども、土砂災害のときの避難経路の確認をして、いざというときの備えを忘れないようにしていきたいと思いました。

○いつ災害が起きるか分からぬからこそ、普段の避難訓練で起きた時のことの想定して行いたいです。

○語り部さんの話を聞いて、災害から助かるために「ハザードマップを見る」「徹底した避難訓練」「津波でんでんこ」が大切だと分かりました。実際の津波の動画や体験を聞き、改めて災害の怖さを知りました。

○「想定外」を「想定内」にすること、「助けられる人」から「助ける人」になることを思って避難訓練に取り組もうと思いました。その知識をいざという時に生かせる人になりたいです。

